

アオスジアゲハのお母さんになっ

柴田 理智子

私は、毎年アゲハチョウを幼虫から飼って  
チョウになれるようにしています。それは、  
お母さんが子どもの時からやっていたからで  
す。理由を聞くと「自然のままにしておく  
寄生されて死んでしまうのがかわいそうだか  
ら。」と話してくれました。私は、がはきらい  
だけど、チョウは好きなのでやってみる事に  
しました。

でも今年は、アオスジアゲハを飼ってみる  
事にしました。きれいな色の幼虫だったのと、  
チョウのアオスジがとてもきれいだったから  
です。幼虫の食べる葉は、クスの木の葉です。  
その葉からは、スーッとした香りかします。  
葉になる葉だそうです。それを食べているア  
オスジアゲハの幼虫は、病気に強そうだなと  
思いました。いつもは、飼育ケースで育てる  
のですが、寄生されないようにビニール袋で  
飼う事にしました。気が付いたのは、ビニール

ル袋で飼うと、成長が早いようでした。でも、なかなかサナギになりませんでした。「何かが悪いのかな？」と思いました。が、分かりませんでした。お母さんに話してみると、「アオスジアゲハは成虫になるまで育てた事がないの。でも一つ言えるのは、サナギになる日その時」が来たらなるという事。」と話してくれました。日。その時」を知っているのは、この幼虫だけ。もう待つしかないと思いました。でも心配で心配で、しかたありませんでした。

た。それから六日たつた夕方、三匹の内の一匹がサナギになつていました。うすい緑色のようにな少し青いような色のサナギでした。それから十日たつたら残りの二匹がサナギになりました。でも、この二匹のサナギの色が少し一匹目のものと違つていました。毎日観察していったら二匹のサナギに小さな黒い点が出た。来て、死んでしまいました。とても悲しかったです。調べてみると寄生バエにやられてしまった事が分かりました。残りの一匹は無事



にチヨウになつてほしいと思いました。十六日たつた朝、空になつたサナギが風でゆれていました。「無事にチヨウになつたんだ！」とうれしくなりました。ホッとして、すぐつかれてしまいました。お母さんが「アオスジアゲハのお母さんの役目を、よくがんばつたね。えらいよ。お母さんの大変さや気持ちがあつしは分かつたかな。」と話してくれました。ほめられたのは、うれしかった。それに、いつもお母さんが話している事の気持ち、分かつた気がしました。育てる事の大変さ、責任の重さが分かつたような気がしました。この小さな命を大切にしていきたいです。